

市民特派員が行く!



枚方の住みやすさに迫りました

市内の子育て、自然環境をレポート

「住みやすさ」ってなんだろう。普段の生活では特に意識したことはないけれど、私たちが暮らす枚方市の魅力について、市内で生まれ育った岡村美香と、9年前に奈良県から引っ越してきた石山直美がリサーチします。



岡村さん(右)、石山さん(左)

市民100人に聞きました

枚方市のどんなところが好き?

- 1位 買い物が便利…26人
- 2位 病院などの医療機関が充実している…17人
- 3位 自然環境が良い…14人
- 4位 交通が便利…12人

枚方市の良くないところは?

交通渋滞が多い、文化・スポーツ施設が足りない、名物がない…など

子育て環境や教育など、自治体の行政サービスの水準を調べた新聞社の調査で、昨年、枚方市は近畿で1位、全国で19位に入ったそうです。行政サービスは高い評価を受けているけれど、

「買い物が便利」が枚方の長所第1位

難点は交通渋滞

市民は市の長所・短所をどのように感じているのでしょうか。枚方市駅前、学生から高齢者まで幅広い年代の方100人に聞いてみました。

駅前アンケートの結果、市の好きなところとして最も多く挙げられたのは「買い物の便利さ」で、「医療機関の充実」「自然環境の良さ」が続きました。一方、良くない点として「交通渋滞が多い」「文化・スポーツ施設が足りない」などの意見が出ました(左参照)。「名物がない」ことも短所として挙げ

りましたが、上位3位までに入った項目を見ると、生活に必要なものが適度にそろっている点が枚方の住みやすさなのではないでしょうか。また、市外の人にも枚方市のイメージを聞いたところ、「人が多くてにぎやか」「物価が高い」などが挙がり、興味深く感じました。



特派員の松元さん(右)も協力してくれました

取材 石山

保育所の園庭開放や病児保育室が便利

枚方の子育て環境

私が枚方市に移り住んでから、ほとんどの時間を子育てに費やしています。そこで、市民が市の子育て環境についてどう感じているのかを調べてみました。

まずは、絵本を通じて子ども同士、親同士が交流を図る場として人気の蹠跏図書館のふれあいルーム「ひよっこ」に伺い、参加者のみなさんに聞いてみました(写真)。「保育所の園庭開放や育児相談がありがたい」「市民病院が24時間体制で小児救急を実施して

いるので安心」などの声が出た一方で、「子どもを遊ばせる公園が家から遠い」「子育て関係のイベントをもっと増やしてほしい」など意見も聞きました。

また、枚方保育所でもお話を聞いたところ、「子どもが病気で保育所を休むときにも病児保育室に預けられるので安心」といった声が出ました。全国で初めて医療機関併設型の病児保育室が始まったのは枚方なのだそうです。改善してほしい点としては、定員オーバーで保育所への入所を待っている待機児童の解消などが挙げられました。枚方市に限ったことではありませんが、地域によっては希望者数の割に施設が足りないようです。自分が子育てで苦労した時代を終わらせてしまおうと、つい見落としがちになってしまいがちですが、「私自身子どもが小さかった時、同じことを感じたなあ」と思い出す意見がありました。



「子育て中の親同士で情報交換ができる」と好評のふれあいルーム。取材した日は25組の親子でにぎわいました。

また、4月から留守家庭児童会室の開室時間の延長が決定しています。今までは保育所などを卒園すると、夕方6時以降の子どもの預け先が確保できず、困られた方もいるそうです。7時まで延長されることで、保育所と同じ時間まで預けることができ、便利になりますね。

取材を終えて

石山さん

以前住んでいたまちは、自然環境が豊かで公園も多い一方、どこへ行くにも車が必要で不便でした。私は枚方の、都会的で便利な部分と、里山などの自然が程良く混ざり合ったところが好きです。改めて住みやすいまちだと実感しました。

岡村さん

アンケートでは、市民が感じていることを知ることができて楽しかったです。私が感じる枚方の良いところは、子どもたちによく遊んだ山田池公園など自然が多くある点です。長く住んでいる人が多いということは、やっぱり住みやすい都市なんですね。

全国に誇れる枚方の自然環境

穂谷の里山



枚方市は都市部の割に自然環境が豊かだと言われます。

生い茂った竹を伐採することも大事な作業の一つ。私も挑戦させてもらいましたが、意外に簡単に切れました

そこで、このほど全国2000力以上の候補地から「ほんの里100選」に選ばれた穂谷の里山に行き、保全活動に取り組むボランティア団体「枚方里山の会・氷室」の皆さんにお話しを伺いました。細い道を通って山を登ると、「奥之谷」と呼ばれる南北に開けた場所に到着。まるで別世界のような緑の多さにびっくりしました。会のメンバーは、「ゲンゴロウ、アメンボなどの生き物や、ウバユリ、セキショウなどの植物を呼び戻したい」と、使われなくなった棚田を水性動植物が生息できる「湿性バイオトープ」として再生する活動などに取り組んでいました。市内にも素晴らしい自然環境が残っていることを、もっと市民に知ってもらいたいですね。